

マーケットと専門知の分離は、市場の脆弱化を招く。

マーケットと専門知の連携、という問題に関しては、市場から自律した歴史の形成が、長期的には、市場における信頼、確信を高める、という視点が重要。

専門知の形成＝研究、批評、アーカイヴ、美術館の連携が不可欠。国立アトリサーチセンターの意義。

近現代美術コレクションの可視化、公共化

ひとつの可能性として、第三者機関の設立。批評的、歴史的な見地からの評価

その作品を記述する（歴史的、批評的）特異点の記述。

その作品に内在する、潜在的な知的情報を共有可能なものにする。

美術の歴史だけに留まらない、文化的ネットワークの記述。

1950年代-1970年代の美術（「現代美術」というジャンルが制度化された時代の美術）は、制度の内部の論理で記述可能、可視化しやすい。

が、一方で、その論理に接続できない同時代、あるいはそれ以前の作品は忘却される傾向。

「代表的な」作品の選出は、そのほかの作品、作家が捨象される懸念。